

海外安全対策情報
(2018年4月～6月)

在セブ領事事務所

1 社会・治安情勢

(1) セブ州はマニラ首都圏に次ぐフィリピン第二の大都市圏であり、テロのターゲットとして大型ショッピングモールや外交団施設、外国資本の施設が標的とされる可能性も排除できない。

昨年4月中旬、ボホール州イナバングにおいてアブ・サヤフ・グループ(ASG)のメンバーと治安部隊とが衝突する事件が発生する等、ビサヤ地方(セブ州を含む)における治安情勢は不透明な状況にあるため、十分な注意と警戒が必要である。

(2) セブ州は世界的に著名な観光地を擁しており、2017年の年間邦人渡航者は39万人に上った。

今期においても、セブ首都圏を中心に、邦人短期渡航者が、いかさま賭博や刃物を使った強盗等の犯罪被害に遭う事案が引き続き発生している。なるべく単独での行動(特に夜間の一人歩き)を避ける、見知らぬ人から話しかけられても、むやみに信用し、同行しない(単に親しくなりたいといった目的で話しかけられたと感じる場合は、相手にしない)、バッグ類は、安易に椅子の後ろにかけたりテーブルの下に置いたりせず、常に目に見える場所で確実に管理する、ジープニー、トライシクル等の利用は避ける等の防犯対策を怠らないことが重要である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) フィリピン国家警察から入手したセブ州の犯罪統計によれば、2018年4月～6月における犯罪発生件数は以下のとおり。

(ア) 殺人(含む未遂) 119件(前期比:9%増)

(うちセブ都市圏(セブ、マンダウェイ、ラプラプの3市)で57件(前期比:26.5%増))

(イ) 傷害 438件(前期比:14%増)

(うちセブ都市圏の3市で185件(前期比:7.5%増))

(ウ) 強姦 95件(前期比:287.5%増)

(うちセブ都市圏の3市で31件(前期比:19%増))

(エ) 強盗 208件(前期比:14.5%減)

(うちセブ都市圏の3市で94件(前期比:12%減))

(オ) 窃盗 548件 (前期比: 14.5%減)

(うちセブ都市圏の3市で373件(前期比: 12%減))

(2018年4月～6月における犯罪件数総数は9,456件, 前期比より9%増, 前年同期比で9.5%減となっている)

(2) 邦人被害事案

(ア) 5月及び6月, セブ市内の日本人もよく訪れるショッピングモールで親しげに声をかけてきた人物に, 自宅等と称する建物に案内され, その後, トランプ・ゲームに誘われて, 多額の現金を巻き上げられたり, クレジットカードで買い物をさせられたりする, 所謂「いかさま賭博」事案が複数発生。

(イ) 4月, セブ市内のコンビニエンスストアで深夜, 買い物を終えたところ, 男性2名に刃物を見せつけられ, ATMで多額の現金を引き出させられ, 強奪される事案が発生。

(ウ) 4月～6月, セブ市内及びマンドウェイ市内において, ①レストランやカフェ等で被害者が目を離した隙に鞆や金品等を盗む置き引き, ②路上や観光地, 公共交通機関内でのスリ等の窃盗被害が複数発生。

(エ) 犯罪被害ではないが, セブ市内及びその近郊において, 遊戯施設利用中やマリンスポーツ中の事故による負傷事案が複数発生。

3 テロ・爆弾事件発生状況

邦人被害にかかる事件は無し。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害にかかる事件は無し。

5 日本企業の安全に関する諸問題

当地に所在する日系企業・個人に対する恐喝, 脅迫等の問題は報告されていない。

(了)